

## 平成28年度第1回東大和市公民館運営審議会会議録

日 時 平成28年4月21日（木） 午後2時～4時

場 所 中央公民館 視聴覚室

出席者 （委員）9名

（職員）尾又中央公民館長、平野中央公民館事業係長、藤田南街公民館長、佐野狭山公民館長、岩田蔵敷公民館長、蓑田上北台公民館長、内藤主事（記録）

欠 席 3名

### ・【内容】

#### ・審議事項

#### ・①平成28年度公民館運営審議会定例会の日程について

委 員：それではですね、議事にしたがって進めたいと思います。本日の次第どおりに行きますので、まず審議事項の1番目「平成28年度公民館運営審議会定例会の日程について」を議題と致します。尾又中央公民館長お願い致します。

尾又館長：それでは次第の次のページの平成28年度公民館運営審議会定例会の日程表をご覧ください。これにつきましては以前ご審議いただいたとおりになっており、変更点ございません、よろしくお願い致します。

委 員：議題等の欄についてはその都度、次回のということでもまたは私たちのほうで2週間前に打ち合わせをしておりますので、そのことから新たに入ってくることもありますけれども、主な議題としてそこに載せております。これについては何かご質問等ございますか。

全 委員：異議なし。

#### ・②平成28年度当初予算の概要について

委 員：では皆様それぞれ日程、第2回6月23日から第8回来年の2月16日まで予定を立てておりますので、スケジュールの調整お願い致します。では、続きまして審議事項の2番目「平成28年度当初予算の概要について」を議題と致します。尾又中央公民館長お願い致します。

尾又館長：それでは中央公民館関連、歳出事業費内訳をご覧くださいと思います。私の方から全館一括して説明させていただきます。全体的にですが、臨時職員賃金の単価増額が全館で実施されております。中央は雇用期間の実態にあわせて減額となっておりますが、正職員と臨時職員の賃金格差縮小を市役所全体で実施しております、他の4館ではすべて増額となっております。また、全館で印刷機をレンタル化し賃貸料が発生したことから、中央公民館の旅費・修繕料と他4館の消耗品ほかの欄が増額となっております。中央公民館につきましては、公民館まつりが、2年おきで平成28年度は開催されま

せんので、予算化しておりません。それから狭山公民館では27年度に外壁調査が終了し、蔵敷公民館のほうが28年度に入っていますように、蔵敷公民館で実施いたします。中央・狭山・蔵敷で委託料が増額しておりますのは、清掃とか施設管理各種点検などの委託料が単価アップしていることによります。南街と上北台公民館につきましては、管理は市民生活課市民センター系の業務になっておりますことから、公民館では管理費の計上はいたしておりません。予算についての概要は以上になります。

それでは、五館合同事業平成28年度事業計画 平成27年度事業報告をご覧ください。昨年度までの公運審では、事業計画のみの表を配らせていただいておりますが、審議中に前年度との比較表にして、どんな課題をどのように取り組んだのか、一覧性のある表にして欲しいとご要望がありました、今回からA3の横版の書式に変更させていただきます。今回文字のフォントに違いがありますがけれども、特に意味があるものではなくて、個々の事業ごとに担当職員が入力しているなかで、フォントにそろいがないまま出していました、申し訳ございませんでした。文字のフォントの違いには意味はありません。

一番上の夏休みみんなでつくる遊空間になりますが、こちら平成15年の2月に実施しました「公民館のつどい」という行事の中で青少年の居場所について話し合わせ、公民館運営市議会委員さんが中心となって始められた公運審さんたちの力による事業でございます。夏休み期間中、公民館のグループが青少年を対象に体験教室を実施したり、自習スペースとして学習室を開放したりしております。今後も公民館運営委員会の方には注目していただきたいと思っておりますし、旧公運審委員さんのご協力で継続してまいりますので、是非皆様にも一度ご覧になっていただきたい事業でございます。

次の欄の「障害者青年教室～青年ビートクラブ」とその次の「市民大学・東大和グリーンカレッジ」は今後も継続して実施してまいります。次の欄の「公民館のつどい」につきましては、公民館の役割や市民の課題について話し合う事業となっており、32回実施された伝統ある事業でございますが、5館の公民館を始め市民大学など様々な事業が市民企画となっている関係でこの事業につきましては、全く企画委員が集まらなくなりました。他の事業でも公民館の役割を学んだり、市民の課題に取り組むことができることから、28年度から中止させていただきます。

次に一番下の欄にあります「ここがふるさと東大和の魅力発見発信し隊」でございますが、市長会多摩・島しょわがまち活性化事業で平成27年、昨年度から3年間で実施している事業です。28年度は発見し隊が多世代交流や情報発信基地として活動できる場所・展示スペースや戦争遺跡、まち歩きなど観光に繋がるまちの魅力づくりをテーマに活動しています。発信し隊というもうひとつ部隊が

ございまして、発信し隊はポータルサイトを更新しております。

「公共施設案内・予約システムの導入」ですが、平成27年度から1年間でシステム検討から導入まで駆け足で実施されました。利用者の方々にも急なお話となってしまう戸惑われたり不安に思われたりとあまり良い状況ではなかったと思います。南街公民館、利用者連絡会をはじめ、要望書も届いておりますが、窓口で丁寧に対応させていただきたいということでご理解いただけ、現在は様子が落ち着いてきており皆様のご様子に安堵しているところでございます。

今後は調整会議に代わる利用者の皆様との交流の機会について各館の利用者連絡会様と相談して参りたいと思います。ご説明しました、五館合同事業以外につきましてはお読みいただけますようお願い申し上げます。五館合同事業の説明は以上でございます。

委員：ありがとうございます。区切りをつけていきたいと思っておりますので、まず五館合同事業について質問がありましたら、委員さんの方からお願いします。

委員：発見発信し隊の事業ですけど3年事業の中の2年目という位置付けだと思いますけど、ホップステップジャンプというようにレベルを徐々に上げていくと聞いております。そういう意味で2年目大事だというように思いますが、若干詳細を聞く時間がちょっとあったのですが、そうしますと月に1回ずつ連続して、で何回か催すと。しかも月1回ですね、通しで午前午後と分かれてはいるのですが、同日に開催をする。こういうふうな内容で懸念をしております、私としては。同じ日に同じ対象者、違う対象者、いずれにしても1日でこなす、しかも月1回ですからね。そういうやり方が、本当に実態に則しているかどうか。1年目の反省に立って2年目の決意をどう固めるかという意味でやや懸念をもっています、どうも聞くところによる業者の都合があって1日1回で済ませたいようにも聞いております。あるいは誤解があってはいけません。そんなふうにも耳にしたものですから、本当にしっかりやって頂きたいものですから、やや懸念をしております。

その上でさらに申し上げますと委員を中心に「まち連＝まちおこし連絡会」というのが立ち上がったのですよ、この実行したみなさんを中心に具体的にどういう風に展開しようかという動きが既に立ち上がっております、ですからこの「まち連」を生かしつつこの新しい未来ある講座をより充実させていただきたいと思っております。質問といえますか、意見のようになってしまいましたが、もしこの辺についてご見解があればお伺いしたいと思います。以上です。

委員：ありがとうございます。では、尾又館長お願いします。

尾又館長：28年度の事業内容のところ「発見・発信し隊」というのが「発見し隊」が観光とコミュニティスペース2項目書いてあると思います、「発信し隊」が1項目でポータルサイト更新ということで3つの部隊をとりあえず開こうということになっています。観光の舞台とコ

コミュニティスペースの部隊は委託に出して委託業者のほうでももちろん公民館の職員と一緒に、プログラムを構成しております。

公民館で予算化していくと講師料とか印刷費とか色々細かい金額の中で予算をやりくりしていかなくてはいけないのですが、その辺を一括して委託することで、融通性のある事業運営をしてもらうということで業者さんをお願いします。業者さんもちちらに職員を派遣するのに同日で午前と午後とわけて、内容に参加されるみなさんは、例えば午前中に観光でしたら午前中に観光に興味がある方、観光で東大和のまちおこしをしたい方が集まられる、事業者同じで。

午後には同じ事業者が別の先生を呼んだりとか、例えばコミュニティスペースに興味がある方、コミュニティスペースをつくって子育てしやすいまちの事業を展開していきたいという方たちが集まって午後それを受講していく。というようなことと、ポータルサイトはまた別のネット関係の事業者に委託しますので、そちらのほうはまた別の曜日で活動していく。もちろんポータルサイトにも一緒に入ってくるかたもいらっしゃるけれども、観光をやりながらポータルサイトもやったり、コミュニティスペースをやりながらポータルサイトもやったりというような市民の方が2つの活動をやったりとかできます。

そのように講座の中で学習したいところに入って行って、学習しつつ、皆様と一緒にお力を合わせてやっていくということを28年度の事業内容としていく予定です。

27年度は職員の方は、3年計画ということで考えておりましたが、27年度参加された方々が、本当に思いかげず自分達で是非活動したいという熱意がございまして、ひとつ「まち連」というグループができました。「まち連」の方々の情報収集をしたり、今後どのように活動したらいいのかのアイデアを持っていたり、色々な他市の事例とか情報交換したりできると思いますので職員もこちらの「まち連」の方には欠かさず参加させていただいております。そのなかで、講座のほうは実際の事業費300万円の中で、28年度も色々な事業を行っていましたが、まち連さんとの協力し合いながら色々な修正をいれたり、29年度に向けてどんな展開にしていくかというようなことを語り合いながら、29年度最後までそこに突っ走ってまいりたいと思いますので、講師の皆様を是非ご注目いただいたり、参加していただいたりということで、3年間しっかりと育てて行きたいと思っておりますので、どうぞ協力お願い致します。以上でございます。

委員：よくわかりました。まち連を活用していただきたいと重ねてお願いします。

委員：他にありますか。

委員：それでは、2つばかり意見を言わせていただきます。1つ目は「公民館のつどい」ですけど、これは今年度から五館合同事業計画から削除すると書いてありますので、28年度は中央でやるのかわかりませんが、どういう方向性で今いっているのかわかっていたら教えて

いただきたいというのと、それからいずれにしても、つどいで講演会か研修会かダンスをやるのか合唱をやるのかバンドをやるのかわかりませんが、できたらこのような中に、どういう内容でもESDを取り入れて欲しいというのが希望でございます。昨年の関ブロと委員部会のほうでESDについては研修会、講演会等やってきましたけどまだまだ認知度が低いんですね、もしできたら取り入れて欲しいなと思います。

それからもう1つ、「こうみんかんだより発行」これはリニューアルということで、今年度重点目標に入っております。それですね、去年の行政評価外部委員会で色々議論をしまして、例えば「2ヶ月に1回の発行で必ず見ている」という方もいますし、意外と色々な人が見ているという。「市報とか市議会だよりと比較して、地味なので異色カラーにしたらどうか」とか、「紙面をA3版ぐらいに大きくして文字を大きくしたら見やすいのではないか」とか、「公民館の利用者が減っている、こうみんかんだよりは誰を対象としているのか利用者なのか」それから、「公民館の壁を低くするように右往左往するのも1つの手だろうと、創意工夫が必要だ」などなど50項目ぐらい出ております。これは、職員会議で詰めるような話を書いてあるのですが、このような外部評価委員会の意見もどうぞ取り入れられたら取り入れていただきたいと思っております。それから、公運審の活動等について一覧を設けていただくと、マニュアルの20ページのものもある程度整合性がもてるかと思えます。下の方の1/3だか1/4の紙面に、公運審としての活動だとか方向性だとかこのへんのところをもう少し取り入れられたら、ありがたいと思っております。できれば内容がある程度固まったらこの会にも出して欲しいということをお願いいたします。私の方は以上です。

委員：はい、では尾又館長。

尾又館長：それでは「公民館のつどい」についてでございます。こちらは第30回までは「公民館のつどい」というタイトルで、市民の皆様と東大和市が抱えている課題ですとか、公民館課題について、実行委員さんと話し合いながら内容を決めていって、その課題となるような講座を一日のうちに3つか4つか行い、全体会のなかでもそれをシェアしながら話し合う活動を続けてきました。

そのあと31回目ですでに実行委員の集まりが悪くなりまして、31回目につきましては体験講座をしていただいてネイルアートですとか、体操ですね、あとは片付けの講習を受けたりしまして、そちらの方は一番の東大和の公民館で抱えている課題として、グループ数や利用者が減っているということがあったので、その課題を解決するために3つ講座を同日に行い、その中で、3グループをつくっていただいたような31回目がございまして、32回目がこちらに書いてありますように、ダンスグループの発表の場が公民館の中でなかったという課題に向き合うために、ダンスグループ様に集まっていただいて、

企画を起こしていただきながら、ダンスの発表をしていただきました。

先日の都公連の関ブロ大会で話題となりましたESDにつきましては、今回もう市民大学のほうはAコースとBコースで決まってAコースが福祉、Bコースが教養と決まっておりますけれども、今後もしESDを公民館のほうで何か取り上げるとなると、29年度の市民大学ですとか、28年度の各館での地域課題講座のようなところでまだ企画委員はこれから募集して内容を決めるような講座もあることからその中で市民の方からご希望があればESDについても取り組んでいけたらなと思います。

それから、こうみんかんだよりですが、重点目標に載っていきまして、公運審の委員さんからこうみんかんだよりをリニューアルした方がいいという事で、こちらの重点目標にも盛り込ませていただきました。こうみんかんだよりの担当職員も4月にメンバーが決まったところで、その担当のほうで今後のスケジュールですとか、リニューアルの方針ですとか立ててもらいながら内容について検討していくということを始めたいと思っております。今年度それがリニューアル完成まで行くのか時間が掛かるのか、まだこれからの会議によりますので何か必要なときにはまた公運審委員さんに途中経過についてはご報告しながらご相談することもあるかと思っておりますので、その時に色々なアイデアや他市のこうみんかんだよりをご覧になっていただいて、こういうアイデアがあるじゃないかというようなご意見があると思っておりますので、よろしくお願い致します。

委員：ありがとうございます。他はいかがですか。

委員：是非お互いに協力したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

委員：他にはどうでしょうか。

委員：こうみんかんだより発行のその前なのですが「うどん講座」がございます。ここに色々説明が書いてあるのですがけれども、ちょっとこれだけじゃどういう形で、どこでされて、どのような効果があったか、また今後どういう風に考えているのか、その辺ちょっと教えていただきたい。

尾又館長：こちらの方は今の市長肝いりで始まった講座でございまして、26年度に始めましたけれども東大和の観光地化を進めたり、東大和で観光資源になるようなものを作れたらというような目的がありまして、あとは地産地消として地元で作ったものを地元で食べるというようなエコな観点もございまして、うどん講座というのを始めました。

小麦を作良いのではその中でできた小麦からうどんを作ってみなで食べる。その中で地産地消を学んでいくということと、もしうどんの中でも小麦を使いながら、うどんあるいは他のもので東大和の名物となるようなものができるというアイデアが出てきて、それが市民の活動になっていったら良いのではないかと目標は大きく設定して、始めております。小麦というのは秋11月に蒔きまして、年度を

跨ぐというような講座になっておりまして、講座のスタートが11月で終わりが6月になっておりまして、ほとんど1年掛かるような講座というような講座は公民館ではなかなかやっていた事業ですので、開始はしましたが、スパンが長いことから参加者が伸び悩んでいるというのが一番の悩みでございます。

ですので、人数が少ない中で1年間通して参加していただかなければいけないですし、もし地産地消を考えて何かグループ活動を始めていただくには、最初の人数が2、3人で始めていくという形になってしまいますので、なかなかまだ上手くいっていない状況でございます。こちらも今度9月には2回目の刈り込みをすることになりますので、もう2回の講習の講習が終わる形になりますので、3回目につきましては1回目、2回目と同じような講座内容ではなく工夫していくということは今考え始めているところですので、28年度につきましては、まず6月に2年目が終わります。また今度、三度目がこの年度内に始まりますけれども、3度目につきましてはこれから工夫していくという状況になっております。以上です。

委員：確かに東大和市とか武蔵村山市はうどんが有名ですよね。確かにうどんをみなさんの粉を使ってね。工夫してこういうことをやっていけばね、講座を受ける人が少ないというけども、目的が小麦・うどんのことを教えるのか、それかうどんを作って、作り方とそれをみなさんで食べておいしかったよと広めていくようなことが主体なのか、それとも小麦粉に関してうどんの作り方を教えるのが主体なのか、その辺はどちらでしょう？

尾又館長：うどんというのが東大和の文化でもありますので、うどんというものにこだわりたいという点もあるのですが、でも全国見ておりまして、例えば私が一番印象に残っているのは鹿児島島の「ヤネダン」というグループで、全然普段農業の中で取り組んでこなかった高級な唐辛子をつくって韓国に非常に高く売って単価が高い中で生産量による収益ではなくて単価が高いものを韓国に売ることによってその地域が潤うということをやっているところもありますので、全国的にそれまでにあった産業を伸ばしていくのか、全く新しいものに目をつけるのか、どこの地域でも悩んでいることだと思いますので、今のところうどん講座をやりながら麦の商品化ができればいいというものもありますけれども、上手くいけばいいのですが上手くいかないようでしたら変えるという話もございます。

委員：ありがとうございます。たまたまですけど、私どもの老人会でうどん打ち体験、食べる体験をやっているんですけど、これも3回ぐらいやりましたかね、もう大勢来るのです、入りきれないぐらい集まりましたね、みんなで教わりながらうどんを打って、食べたら非常に美味しいと、会員同士のコミュニケーションも十分達成できますしね、やっぱりその辺の講座に対するアピールの仕方、みんなで食べましょう、そのあとみんなで話し合おう、学びましょうとそういうふう

なことを打ち出していけばいいのかなと思いました。

委員：大事な意見です。ありがとうございます。五館合同の内容についてですが、他に。

委員：公民館のつどいで私は育ってきた人間なのですけども、なくなるということに反対というのではなくって、むしろ「まち連」だったり、「発見発信し隊」それから様々な活動にシフトしていったり、移行していくのかなという思いでは期待をすごく持っていますが、「公民館のつどい」ですごく私がよかったと思っていたことは、生きにくさがここで聞いてもらえる場があり、それをとりあげて女性の生き方だったりとか、子育ての仕方だったりとかをぎゅっとみんなで話し合う場所がありました。

次の年には、自分達の問題点をみんないろんな世代で出し合うことで、こんな問題があったのだと知ることができました。その中で豊かさとは何だ、東大和の宝物を探そうということで雑木林を楽しむ会という会がそこでスタートして今も続いています。もう1つは、0歳児の親子の居場所がなかったところから0歳児親子サロンというのが始まりこれも13年続いております。そしてついに公民館保育室にも0歳児保育の実現ということで私たちの問題点「生きにくさ」つどいで気付かされ、つどいで引き出され、そこで実現を向かえたこの10何年、私にとってのつどいの10何年だったのですが、つどいに来なければいろんな世代の問題点はわかりませんでした。地域の問題に始めてそこで出会い、それまでは私の自分の家族だけで良いと思っていたのですけど、なので是非このようなみんなが本心でぶっちゃけられるような場があってそこから問題点が出てきて、じゃあみんなで解決しようよ！というような場所が、これから活動が活発になっていくかと思うのですけど、まち連でそれができたり、そこに公民館の先輩方もたくさんいましたので異世代の方が集まっている場所だったので、そこで問題点が解決できるような場所になったらいいなと思いました。以上です。

委員：最後のその他のシステム、2年目ということでこの表現ですと、引き続き運用検討と書いてありますが、具体的にはどういった形にしようということになるのでしょうか。

尾又館長：こちらにつきましては、第三次情報推進化計画の方に、今後もシステム導入後の市民の利便性の向上、事務の効率化及び費用対効果について引き続き研究・検討という風に計画がなされております。公民館と致しましては、これから皆さんからのご意見がこれからも出てくると思いますので、利用者と連絡をとり相談しあいながら進めていくという形になります。特に27年度はプロジェクトチームという形で行いましたが、28年度以降は担当者制をとりまして、担当者の中で各館からあがってきた問題点や何か緊急に話し合わなければいけないことがあれば職員会議等に出していくという形で進めて行きたいと思います。



委員：予算見ますとね、結構額大きいですよ、3年計画の300万についてということでしょう、かなり具体的に煮詰まった上で予算計画されていると読んだのですが、このお話ですと必ずしもそうではない。利用者の意見も聞きつつ、より良くしようという風に感じて受け止めたのですが、違ってますでしょうか。

尾又館長：27年度も28年度も予算につきましては、情報管理課という風にさせていただいております。当初より公民館で予算化しておりませんので、情報管理課のほうで27年度導入、それから27年度の運営費として3,536,000円の予算計上、それから28年度につきましては当初の機械を導入するとかシステムを作るということでは予算はすで投入の必要はないのですが、運営費2,629,000円というのは全くの運営費です。今後も毎年この予算で運営していくというただの維持費になります。ですので、予算内で利用者からご意見が合って手直しができる、業者の方でOKが出るものがございましたら、変更も叶う。ただ予算内で収まらないということになりますとシステムをいじれないということになります。

委員：わかりました。

委員：委員どうぞ。

委員：27年度の事業報告と28年度の事業紹介をこういう風に表していただくと、昨年から参加したまだ知識の薄いものからすると、わかりやすいのでありがとうございます。質問は今予算の話なのですが、一番下の「ここがふるさと東大和の魅力発見発信し隊」の予算について、この金額というのは3年間分ですか。この表の一番右上にある異年齢という言葉を使われているので、今後の方向性というのは一般的なのかと。通常、異世代と使うのですが、何か意図があったのかと。この2つ、どうですか。

尾又館長：予算については、平成27年度のところにも予算が300万、28年度のところにも予算が300万、これが3年度ですので29年度にも予算が300万、計900万ですので、本当に仕事のボリュームが増えたということで公民館のつどいも惜しいところではございますがなくて頂いたというふうになります。それから、「夏休みみんなでつくる遊空間」の異年齢については異世代の同等の言葉として使っていると思います。

委員：私は異年齢と異世代は使い方が違うとか考えていて、世代はどうしても範囲で、それこそ乳幼児は学校にあがるまでの一定の期間とするから、大人になる前の子どもとか、大人とか。大きい区分だったら異世代と使うことが多いと思います。特に大きな使い分けをしなきゃいけないというのは私もわからないのですが、異年齢だから異世代と違うというのはそうでもないな、大きな差はないと思います。公民館の行事を私も毎年見させてもらっているのですが、異年齢っていう感じがわかります。幼・小・中・高、それが高齢の大人の方と一緒にやってるのは異世代よりも異年齢集団というのは参

加してみると感じます。私はそうだなと体感的に思います。

委員：他はどうですか？

委員：予約システムは上手くいっていると思うのですが、調整会議がなくなってしまうので、我々現場の利用者にとってのお互いの交流とか連絡とかそういうのがないっていうのはまずいのかなというのと、システムでしようがないと思うのだけど、毎月1日に予約をいれて15日に確認して当選とか、そのあと確認を入れるようになっているのですよね2週間。その2週間がちょっと長いと思っているということと、2回やらなきゃいけないくて、今までは1回で終わったのだけでも、入れて確認して、それからもう一度打つということの間の2週間というのは長いという気がするのですが。慣れれば1日、15日、1日、15日…と覚えていけばいいのですが、そのあたりはシステムでできないということなのではないでしょうか。

尾又館長：事業者のシステムを導入しているところを参考させていただいております。他館、他市につきましてもそのようなスパンでやらせていただいております。やはり、短いスパンの方がいいという方もいらっしゃると思いますし、活動を何日にやるかすぐに煮詰まらないというグループさんもいらっしゃると思いますので、ある程度期間を設けた上でグループさんの会員同士が一番参加できる日、あとからキャンセルしないで欲しいというような、一番確実性のある日を選んでご予約していただくのがいいと思います。あまり不確実なうちにどんどん入力されてしまいますと、空きがなくなったり、ぶつかって落選がふえるとあとからのフォローが大変になると思いますので、ですからなるべく確実にキャンセルが少なくなるような形で入力をしていただき、お互いにすみわけていくという形で、なるべく落選が少なくなるような形でみなさんご協力いただけるとある程度いいのかなということで、できれば2週間取らせていただいております。

委員：委員よろしいですか。どこの市も小平市もご苦労した中で、こうしなくてはというのをある程度見極めたうえでやっていらしたような気がします。東大和も運用し始めたところですから、あちこちの市を参考にしながら動かしているのだと思いますけど、それは利用者からの意見としてまとめた上で声を出していくのも必要かなと思います。色んな方が、公民館だけではなく市全体のシステムとして、いろんな方が利用する中で少しでも利用しやすい環境をお互いに考えながらやっていかなければならないのかなと思います。

委員：それでは五館のほうはよろしいでしょうか。たっぷり時間をとらせていただきました。次からは、各館からの事業報告になります。資料の方は目を通していただいていると思いますので、おおよそのところを最初に説明していただき、何か特段ここでこんなことという質問がありましたら、声を出していただきたいと思います。審議会ですので、遠慮なさらず、かといって時間も限られていますので考えていただいてご発言をお願い致します。では、中央公民館から

平野係長お願い致します。

職員平野：それでは、中央公民館のご説明させていただきます。五館合同事業の次のページ、中央公民館事業をご覧ください。主なところを説明させていただきます。成人のところの保育付講座、前期中後期とございますが、「保育付講座」では乳幼児をもつ親を対象として、子育て中に直面する様々な問題を同じ立場の母親同士が考え、学び解決していくことを目的としております。同時に子ども達が親元を離れた集団の中で社会性を身につける場となっております。こちらの子どもの保育につきましては、先ほど少し委員からありましたけど、平成26年度、平成27年度において生後9月を経過した0歳児を試行として受け入れて参りましたけれども、今年度より保育室運営要綱を改正いたしまして、正式に受け入れをおこなってまいります。これにより保育付講座への参加範囲が広がっていくことを期待しております。また、昨年度の受講者から自主サークルが作られ活動しておりますけれども、講座の後の自主グループ化も目指しているところです。今後も前期後期で講座を行います。 「お母さんは100点満点！！自尊感情アップ講座」を平成28年5月31日火曜日より10回を予定して講座を行います。5月1日のこうみんかんだよりに掲載されておりますので、5月6日から受講者の申し込みを受付ける予定です。

続きまして、少し戻りますが、上の方の「青年教室」でございます。こちらの方は、青少年の趣味教養を高める目的で開催しております。昨年度は市役所庁舎の耐震工事の関係から産業まつりと同時開催することはできず、単独での開催となりましたことから、来場者が少なく調整に苦勞致しました。今年度は産業まつりと同時開催しますので、多くの市民の方々にご覧いただき、フェスティバルが盛り上がることを期待しております。また市のホームページを見て市外からの参加グループが増えてきているのですが、逆に市内のグループの参加が少なくなっているため、より多くの特に市内のグループの参加を増やしていけるようなPR方法の工夫など考えていきたいと思っております。

続きまして、ページめくって下から3番目「親子サロン」でございます。公民館の保育室を多くの市民の方に知っていただき、体験してもらおう目的で開催している親子サロンではございますが、午前中は自主グループや講座での保育室利用があるために、親子サロンは午後で開催しております。しかし、午後の時間は子ども達のお昼寝の時間と重なってしまうことから、思うように参加者がいない状況となっております。また、周知をする都合から早いうちに保育室を確保しているのですが、定期利用グループに支障がないような日時を考えながら、なおかつ参加者を増やしていくのはなかなか難しい現状がありまして、親子サロンの開催方法につきましては又考えていく必要があるかなと思っております。

続きまして、親子サロンの下、「ママ・マルシェ」でございます。こちらは保育付き講座から発足したサークルのお母さん達を中心となりまして平成26年度からママ・マルシェを中央公民館の共催事業として行っております。参加者がそれぞれ得意分野を生かしてお店を出したり舞台発表を行ったり、また子ども達の遊び場やサークルの紹介など行っております、親子連れで楽しめるイベントとなっております。今年度も引き続き開催をしていきます。

また、五館合同にありました夏休みに行われる遊空間、こちらの方では、子どもマルシェを開催する予定となっております。中央公民館から事業は以上になります。

委員：ありがとうございます。中央公民館の事業について何かございますか。

委員：1ページの一番上なのですが、戦争と平和について考える見学会ということで、大変結構なことだとは思いますが、わが市には戦争の遺跡として変電所があるわけですね、変電所等との絡みはどんなことでしょうか。当然、変電所のことでも学習した上で見学会。見学会ってというのはどうも去年は埼玉県にいったということですから、まず地元を勉強してからと私は考えているものから、その辺はどんな風にお考えでしょうか。

職員平野：バス見学会ということで、例年埼玉の方に行っている事業でございます。変電所の方なのですが、昨年遊空間の中でランプシェードの絵を描いていただいて、8月15日の記念式典のときにそれをならべまして、子ども達の作品と一緒にそこに並べて皆さんに見ていただくような、その辺でこういうところに飾るのだよということで、企画課が間に入っているのですが、その8月15日のイベントにやるランプシェードを今年度も作って、その中でまた変電所の話をしていけたらなと思います。

委員：組織もできましたしね、子ども会という。そういうところと連携して進めていただければなお良いと思います。

委員：では、中央公民館は以上になります。続きまして南街公民館の藤田館長をお願いします。

職員藤田：前年度と変わった部分だけ見ていただきたいと思います。南街公民館事業の、まず「子ども映画会」についてですが、ここ数年7月に第二小学校の体育館を会場にフィルムの映画の鑑賞をしていたのですが、時期的に熱中症の危険があったりとか、音が漏れたりとかですね、あと暗幕を閉める関係で締め切りするので環境がよろしくないのではないかと課題が出てきまして、事業のあり方について第二青少年と協議をしている最中です。同じ形にこだわる場合でしたら、上の「子どもたちの公民館&児童館」で、お子様向けのお祭なのですが、夏に児童館と共催でやっていければと思っております。

続きまして、成人事業の文学講座についてですが、今年度は夏目漱石や太宰治など日本を代表とする有名な作家を取り上げて、時代背景を学習していくものなのですが、この事業は結構長く継続していると

ころからリピーターさんも多く、すぐにでも自主グループになりそう  
なぐらいリピーターさんもしっかりしておられ、今年については前年  
度今までの反省を踏まえて自主グループ化するような方向性で事業  
を進めていく予定でございます。自主グループ化を目指しているとい  
うことも講師の方と相談させていただきながら進めていただいでい  
るところでございます。

続きまして、趣味講座と学習講座の二つですが、名称を変えまして  
趣味講座の方が郷土学習講座、学習講座が生きがい講座という名称に  
なります。同じ講師による長年の継続的な事業でございます、リピー  
ターさんが多いことや事業の形式が承りという形式を中心とした  
もので、仲間作りがとても難しい内容でございます。ここ数年南街  
公民館では自主グループがなかなか形成されにくくなっている反省  
がございますので、南街公民館の特徴である工作室を活用した内容で  
仲間作りや自主グループのつながりを意識した講座を実施したいと  
考えております。続きまして、「街づくり懇談会」になります、今ま  
で放射能の測定と地域の清掃と講演会と施設見学という4種類の内  
容が一気に盛り込まれた通年にわたる事業でございます。放射能の  
測定というのが南街、桜が丘地域社会福祉協議会がメインでやって  
いる事業であることがわかりましたので、こちら主軸になっていただ  
く会がございますから、企画委員会制度である街づくり懇談会の本編の  
事業とは別にして、今年度は空間放射線量測定調査の方で支援して  
いただくような事業に振り替えて実施していくように改めました。今現  
在、街づくり懇談会は単発の講演会を何回かやるような内容で企画を進  
めていたのですが、なかなか内容が深まらなかったり、参加した  
方々の自己紹介する時間がなかったりと、終わってしまったらそのま  
まで繋がることのできない、仲間作りや同じ課題で繋がるような地域  
づくりがなかなかできない、上手くいかないという反省点がございま  
して、今年についてはなるべく一貫性のあるような事業になるように  
企画を入れているところでございます。

続きまして、「ハロー公民館」につきましては南街公民館では編集委  
員さんと一緒に年3回ですけれどもお知らせを発行しております。相  
変わらず編集委員さんの人数が少ないこと、あとは取材のテーマや内  
容を探していくのがなかなか厳しくなっている状況でございます。ま  
た、配布につきましても配布のボランティアさんの人数が減少してし  
まったため、その代わりに職員が配布するようになるのですが、な  
かなか利用率が高くて、グループ数も多く、職員が配布する時間が取  
れないというような現状がございますので、効率面を考えて職員体制  
が整わない状況がございましたので、配布手段につきまして、南街は  
お店屋さんも多かったりするので、お店の方に協力して置いていただ  
くとか、そういうふうな展開を1年かけて考えていけたらなと思っ  
ております。なかなか文章を書くのは大変だと思ひまして、文章を書く  
のが得意な方がいらっしゃいましたらご紹介いただくと幸いです。

続きまして、施設予約システム操作説明会なのですが、南街公民館利用者連絡会から出て施設の予約システムにつきまして要望書が来ていたので、少しでも利用者の皆様にシステムの使い方を知っていただくと思ひまして行った事業でございます。こちらの方ですが、参加者はそんなに多くはなかったのですが、ある程度疑問が解決されたと思ひます。今現在抽選予約システムが始まって数か月たちますが、みなさん落ち着いて操作をしているような状態でございます。もしグループさんからご要望があれば説明会はするつもりではございますが今のところそういうお声は上がっておりません。あと人数の修正が出たところがございます、成人の趣味講座の27年度の対象・参加者数なのですが、こちら延べ参加人数が127名で、その下の保育付講座が129名で、上下逆にしてしまいました。すみません。街づくり懇談会の日程の書いてあるところですが、奇数月6回と書いてございますが、1回雨で中止となりまして5回となりました。南街公民館につきましては以上になります。

委員：ありがとうございます。南街公民館事業につきまして何か質問等ございましたらお願いします。いいですか。それでは狭山公民館の佐野館長お願い致します。

職員佐野：南街公民館事業のページをめぐっていただいて、狭山公民館事業を見ただけであればと思ひます。主なものについてご説明させていただきます、よろしくお願い致します。最初に上から4番目の「親子講座」です。事業内容は今年度検討中ですが、幼い子どもをもつ親の学習と親子同士の交流を促進する内容の講座として行います。この講座の課題としてはここ数年同じ方に講師を依頼しておりました。講座の学習方法において親のみが学習する形態の内容になっている、またその結果、職員が子ども数人を同時に面倒をみるという状況になり危険をとまうこともありました。なお、参加者の多くがリピーターというのが実情であります。今年度の方針として28年度以降、子どもの安全面や参加者の多くがリピーターであることから今年度からは内容を少し見直していければと思っております。

続きまして「地域デビュー講座」になります、こちらは1月～3月に渡り全6回実施するものです。内容としまして、定年間近な方や退職されて間もない方、現役世代の方などを対象に地域活動や公民館活動への参加に資する内容となっております。この講座では27年度のものがいずれの講座につきましても、講師の方のご指導が質問があるという受講者に個別に対応して頂くなど全体を通して丁寧でわかりやすい講義が好評でした。また回を重ねるごとに受講者同士の交流も増えまして、それぞれの講座から自主グループ化することができ、一定の成果をあげることができました。今後の方向性として、引き続き地域デビューのきっかけとなるようこの世代の方々が関心を持つテーマの講座を実施していきたいと思っております。

続きまして裏面をご覧ください。上から四番目の「グループ活動講習会」です。こちら昨年度は公民館で生LINEと題しまして、参加した方々が様々なテーマで自由に語り、情報交換等ができる場と致しました。公共施設予約案内システムの導入によりまして、3月から調整会議がなくなったことから各グループ同士が顔を合わせる機会が減ることになるためにこのような企画をいたしました。初めての試みではございまして、参加者は少なかったのですが、大いに盛り上がりまして、有意義な時間とすることが出来ました。今後の方向性と致しまして、利用者連絡会の方々との共催により事業を実施する予定でございまして、企画方法やPR方法に知恵を出し合い実施をしております。

最後に一番下になります「こんにちは狭山公民館」の発行です。こちらは地域や公民館の情報を対象地域の市民の方にお知らせするため、年に3回5、9、1月に発行しております。この事業の課題としまして、公民館の講座等の情報が主となりまして地域の情報などがあまり掲載できておりません。なお、地域の方々への個別配布をしておりますが、配布に1日から半日かかってしまいまして、特に暑い9月ですとか寒い1月の配布については職員が体調を崩すきっかけにもなっております。また狭山においては一部ボランティアの方々により配布をしていただいております。これまで幸いに起きていませんが以前と比べまして、車の交通量が増加しているため、交通事故にあう恐れなど課題として挙げております。今後の方向性としてしましては公民館の情報等に加えて地域の情報などを掲載していくこと、それにつきましては日ごろから地域の情報の収集を心掛けていきたいと考えております。ただし、こうみんかんだよりが市報折込されていることホームページでも各誌の情報が見られることなどから発行の継続の有無や配布手段については検討を始めたいと考えております。以上4つの事業を説明させていただきました。その他の事業につきましてはお手元の資料をご覧ください。狭山公民館の事業につきましては以上です。

委員：ありがとうございました。では狭山公民館の事業につきまして何かございますか。狭山公民館まつりの日程はいつになりますか。

職員佐野：未定ですが、例年11月第3の土日に行っていただいておりますので、会議等で検討していただいて、決まり次第ご連絡させていただきます。

委員：では、狭山公民館よろしいですか。続きまして蔵敷公民館の岩田館長をお願いします。

職員岩田：蔵敷公民館事業の主な内容についてご説明をさせていただきます。まず「子どもフェスティバル」です。本年度で31回目になります。非常に伝統のある事業で、地域との団体の共催で青少対の第7地区、東大和市立第5中学校の先生と父母会の皆様にボランティアという形でご協力いただいております。私ども公民館に勤めておりまして、学

校が終わると子どもがよく遊びに来るので見ていますけど、大体皆様テレビゲームなのです。携帯型のゲームをやっている姿がよく見受けられます。せめて子どもフェスティバルがあるときには、テレビゲームではなくて昔ながらのゲームを楽しんでいただいて、家に帰っていただければなという思いで開催しております。毎年日曜日に開催していたのですが、今回色々な都合があつて土曜日に開催することになりました。今までは年々参加者が減っていて、子どもフェスティバル自体をどうしようかという感じだったのですが、これが幸い土曜日に変えたおかげなのか、わからないのですが、かなり人数が増えました。ですので、次年度以降は日曜よりも土曜の方がお父さん休んで出掛けないという確立が高いのか、理由は定かではないのですが、参加者が多かったということで、日程については今年度も他の行事と被っていないかを確認しながら、また内容についても昔ながらの遊び取り入れた形でやっていきたいと思っています。

次は、「未・楽・生倶楽部」この由来はそれぞれ「未来を楽しく生きる」のこれの頭文字をとって未・楽・生倶楽部ということで、これも今回で8回目くらいになります。1つ懸念と申しますか、気になることがございまして、毎年全6回講座を行っているのですが、そのうち2回がバス見学会と音楽鑑賞会、これは国立音楽大学の生徒にきてもらうのですが、高齢化してきているのですね、参加者もリピーター率が5割ということだからかなり高い、毎年同じ人が来ているという状況になります。ですので、今後は根本的に内容を変えた方がいいのか、あるいは本来の趣旨から行くと未来を楽しく生きるをモットーに地域の高齢者の仲間づくりや生きがいを目的にしておりますので毎回同じような内容でもいいのかな、というところが今悩みどころです。またこれ市民企画講座でありまして、市民から企画委員を募集して内容を検討しているところで、いままでは大体企画のみでしたので、今後は実際の運営の方にも関わっていただけると申します。

次に下の段の「国際交流事業」ですね、今年度で3回目になりますね。目的としては在住外国人に日本文化に親しんでもらうと同時に、参加者同士の交流も図ります。また、市内で活動されている日本語の学習グループなどにもご協力いただくことで、グループの活動をPRする場にもなるというようなことを目的としています。特に問題はございませんが、課題と致しまして、2回とも公民館が主催で行ってきたのですが、次回かその次かわかりませんが、できるだけ早い時期に日本語ボランティアに積極的に関わって頂いて、共催という形で行っていただければなと思っております。以上が蔵敷公民館の主な事業になります。説明しました事業以外につきましては、この紙面でお分かり頂ければと思います。宜しくお願い致します。

委員：ありがとうございます。岩田館長、蔵敷公民館まつりの日程の修正をお願い致します。

職員岩田：去年と逆になっておりました、申し訳ございません。本日、お手元に



招待状をお配りさせていただきましたが、5月28日(土)と5月29日(日)になっておりまして、開会式は午前9時半からになりますので、みなさんご参加いただければと思っております。

委員：皆様のお手元にもはがきが入っているかと思われます。宜しくお願い致します。それでは、蔵敷公民館の事業にご質問等はございますでしょうか。委員どうぞ。

委員：まず、国際交流事業で日本語学習は前からされていましたよね。

職員岩田：はい、そうですね。

委員：国立の方の公民館では、こういった事業は近隣の在住さんに喜ばれている。これは大変いいことだと思います。もう一つは、子どもフェスティバルでお子さんがテレビゲームばかりして遊んでいるということで、今度は昔ながらの遊びに切り替えたと、目的とか色々あると思うのですが、昔ながらの遊びというと、具体的にどんなことをされたのですか。

職員岩田：今回はですね、和風の射的と、植木鉢に投げて入れるような感じの遊びですかね。あとブラックボックスは箱に手をいれるような遊びです。他にはボーリングですとかそういった形です。

委員：それは子どもさんだけが対象ですかね。

職員岩田：親子向けで、親子の交流の場でもあります。

委員：大きな目標はなんですかね、どういう効果を期待されたのかしら。

職員岩田：家にいてもおそらくあんまりお子さんと親御さんは話さないと思います。こういうところで一緒に遊んで親子の交流も図ればなと思います。

委員：よくわかりました。ありがとうございます。

委員：ほかの方はどうでしょうか。委員どうぞ。

委員：いくつかご説明頂いた中で、リピーター率が高いのが蔵敷に限らず問題だといわれているのですが、マイナス表現であると聞こえるのですが、ある程度半分ぐらいリピーターがいるので、利用者が期待するようなものがあるのもいいと思います。一律にリピーター率が高いから、すぐさま見直すというのはちょっと…と思います。

委員：リピーターが悪いわけではなく、リピーターかつ新規があるといいですね。

委員：私は東大和子ども劇場というところで、今回フェスティバルにも参加させていただいて2年目になるのですが、やはりゲームという個々の遊びのところから、今回お話いただいた中ではコミュニケーションゲームも大切にして大体15種ゲームをやらせてもらいました。狭い空間なのですが小学3、4年生も人とくっつくのが苦手かなと思っていたのですが、コミュニケーションゲームをやっていると、みんな結構体をくっつけ合うことがあの狭い空間だったからできたのかもしれませんが、周辺地区の子どもたちが集まっているのが、見ていてすごく温かかったなと感じました。これからも引き続きご協力できたらなと思います。とても楽しかったです。

委員：他はよろしいですか。

委員：また子どもフェスティバルの話になるのですが、小中学の地域の活動の場と致しまして、蔵敷公民館にとっても注目させていただいておりますし、今回子どもフェスティバルにもボランティアとしてお兄ちゃんが参加して、下の子は参加者として私も一緒になって参加させていただいているのですが、なかなか同じ学区でも地域の子どもたちが一堂になって遊ぶ場所が、芋窪や蔵敷のあたりには公園とかもそんなにないし、そういう場所があるのが本当に大切なのだなと今回感じました。他の館の方もそうだと思うのですが、子ども達が一堂に会するような場として大人がそれを企画して中学生とか小学生とかみんなが集まって何かをする場所としてやっていただけたら大変助かるなと思いました。

委員：ありがとうございました。他はよろしいですか。では、最後に上北台公民館の方からよろしくお願い致します。

尾又館長：先ほど言うておりました、上北台公民館の蓑田館長が参りましたので、まずご挨拶からお願い致します。

職員蓑田：遅刻しまして、大変申し訳ございません。上北台公民館長となりました、蓑田明子です。改めてよろしくお願い致します。4年間上北台公民館で職員としてやらせていただいておりますけれども、机が隣になって館長ということで、今までやってきたことですが、また立場が違ふということで、よりいっそう皆様と一緒に上北台公民館だけではなく五館全体を盛り立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

では、引き続き上北台公民館の主な事業につきましてご説明させていただきます。まず、上から2段目の「次世代育成講座」について内容といたしまして、大きく2つの事業に分かれております。1つは工作のキットを作りながら理科について学ぶということで、何年か続けているものなのですが、市内で同じような活動されています狭山のガリレオクラブさんをお願いしております。今年度につきましては夏休みにあたる8月に開催する予定です。ちなみにキットはですね、民間の組織の方からご寄贈いただいているのですが、続けていただけるかということで、去年少し懸念がありましたが今年度も同じ形で予定しております。

もう1つの柱が今まで中学生読書会ということで何年かやっておりましたことを、昨年度はアラ中読書会と名前を変えまして、内容については同じようなかたちで、本が好きな小学生から中学生が対象だったのですが、卒業した後も参加しているというような青少年というようなかたもいらっしゃるの、中学生読書会とっていると、参加者と齟齬がでてきたということでアラウンド中学生といういみでアラ中としました。ある中学校にもっていったらアル中と間違われることもございましたが、実際やってみてですね、一昨年度に6年生で何人か皆勤賞で、高校生とも話が合うという子がいたも

のですから、そのあたりも、誰でもいいというわけではないのですが、一緒に話せるような子だったらということで、その子たちは今中学生1年生になっていまして、高校生だった子はここで実は就職を致しましたけれども、土曜日なので仕事がなかったら、参加したいというおりました。昨年度は中学1年生と高校三年生にあたる子が持ち寄りでお勧めの本ということでやるのですが、同じ本を持ってきたりして、そこでまた盛り上がっていたりということで。ただ、人数が少ないのですね。あまり大勢でわいわいやるのとは違うのですが、もう少しPR方法を工夫していけたらという意味では、上北台には児童館がありますが、また違うような雰囲気でも思春期の子ども達の居場所や、異世代交流ができたかなと思います。今年度はもう少しPRしていくということで、話題性のあるイベントだとか、人気のある作家を呼ぶとか、そういうようなことを参加者と一緒に相談するという予定になります。

続きまして、2つ下の「やりがい講座」ですが地域でデビューのきっかけにするということで、地域でデビューという言い方をするとタイアされた方…ということでしたので、昨年度は口笛講座、講座終了後に自主グループ「口笛の会フォイスラズ」として受講者とかキャンセル待ちだった方、最期に聞きにいらした方、などが混じって活動を始めていらっやいます。さらにその前の年にやった落語講座は今「落語研究会上北亭」ということになっておまして、どちらのグループも自分達で練習して中で楽しむのではなく、グループになって早々から高齢者の施設や福祉作業所にイベントに行かれていますということで、地域の活動にも積極的に参加しております。

本年度は5月25日から健康麻雀の企画をしております。こちらにいらっやる委員に講師をお願いしております、麻雀のグループさんはいくつかありますけれども上北地区はなかったものですから、今でもお問合せが時々ありました。そういった形で今まではほかを紹介していたのですが、講座をきっかけに上手く繋がれたらなというところで、ポスター貼ったところでもう数人からお問合せいただいている状況になっております。

続きまして、「地域課題講座の初心者向けタブレット講座」についてご説明させていただきます。昨年は1月に開催していたのですが、使用できるタブレットが同時に繋げるということで制限があって10人が定員だったのですが、申込み始まって30分足らずでうまってしまいました。実は上北台公民館は保育つき講座が昨年度はタブレットだったのですが、その時も保育付ということで若いお母さんがターゲットだったのですが、意外に中高年からのお問合せが多くて、そのこともあって年度の途中でやったのですが、様子を見ていますとタブレットはもっているのだけど、使いこなせていない、使いたいというような方がもっといらっやいました。

今年度につきましても同じような形で市民のグループの方にお手伝いいただいているところなので、ご相談しながらやっていく予定になっております。

続きまして、「保育付き講座」です。例年、乳幼児をお持ちの保護者となっておりますが、大抵はお母さんがターゲットになっているのですが、今回はもちろんメインのターゲットなのですが、もう少し広げて歴史をテーマに開催することを予定しております。日程が5月26日から、26日はならし保育なのですが予定が決まっております。子ども達にとってはここがふるさとになるというようなコンセプトにして、若い世代のお母さんたちはもちろんなのですが、もう少し広い世代に受講していただくような、お子さん達もふるさと、祖父母の世代からしたらお孫さんがふるさと、というような形で地域を知って頂くと同時に色んな世代の交流もできたらなど考えております。交流の機会になるだろうということも含めて、市内に2回見学会ということも予定しております。保育付講座で館外に出るということは主催講座としては認めているのですが、実践として経験は少ないので、保育者の方と相談しているところなのですが、ママ・マルシェ他子育て世代の方々が公民館での活動が昔からありましたが、よりいっそう幅が広がっている時期でもありますので、可能性について安全面を配慮しながら考えるひとつのきっかけになればと考えております。

最後に、「利用者懇談会」こちらは例年活動者の方々の相互情報交換や公民館に対するご意見を全般的に聞くということで12月に毎年開催していたのですが、今年度につきましては施設予約システムが本格稼動したということで、時期についてはもう少し早めて夏か秋の頭ぐらいに情報交換や調整会議の代わりと位置づけられたら、ということで予定しております。公民館まつりなのですが、今回の土曜日が今年度の役員の顔合わせの1回目ということで、日程を確定する予定なのですが、一応10月の15、16日かその次の週に考えております。他のところにつきましてはこちらをご覧ください。説明は以上です、ありがとうございます。

委員：ありがとうございました。それでは上北台公民館事業につきまして、何かご質問、意見等はございますか。

委員：上北台についてですが、グループ活動講習会の内容がシステム導入によって調整会議がなくなって、グループ間の交流を考えてくださっていただいて、利用連が私達にとっても調整会議がなくなったということで、自分達も考えていかなければならないという状況だったので、グループ活動講習会と利用連のグループさんの交流が調整会議でなくなってしまったところを補えるような企画を一緒にやっていただけると幸いです。

委員：では、上北台公民館への質問等は以上ですかね。振り返って、気にな

るところがございましたら、お願い致します。…よろしいでしょうか。それぞれ事業計画されていますので、また審議会等で進捗状況等が話題になると思いますので。みなさんのほうからご意見をいただければと思います。では、審議事項を終わらせていただきます。